

◇吉野久君

○議長（後松一成君） 次に、10番、吉野久君の一般質問を許可いたします。

（10番 吉野久君 登壇）

○10番（吉野久君） 一般質問をいたします。

平成17年度一般会計当初予算117億4,300万円は合併美郷町として、また松田町長として初めて編成された通年予算です。健全で安定した財政運営の観点からシミュレーションした新町建設計画での17年度予算額127億4,300万円をちょうど10億円下回り、今後、補正予算が編成されることを考慮しても堅実で確実な予算編成との印象を受けます。

一方、町として直接住民生活にかかわる喫緊の課題には速やかに対処していかなければなりません。それがまちづくりの根幹とも言える人材育成の現場、義務教育施設での課題となればなおさらです。現在、地方財政はいよいよ厳しさを増し、また国の税源移譲が不確定の段階でもあり新規事業の展開は慎重にならざるを得ない状況でしょう。しかし、そんな財政事情を勘案しても後年度に後回しできない事業もあります。

私は一般質問の第1点として17年度事業に六郷中学校第一体育館の新設を提案し、町長の見解をお伺いいたします。

平成7年1月の阪神・淡路大震災を機に施行された耐震改修促進法では建築物一般に耐震指標であるIS値0.6以上の耐震性を求めており、これは震度6強から震度7規模の地震でも倒壊を免れる強度とされています。昨年実施した昭和56年以前に建設された小・中学校の耐震診断の結果、文部科学省で改修が必要としたIS値0.7以下の学校が仙南東小学校と西小学校、そして六郷中学校という結果が出ました。六中では管理棟と教室棟、それに体育館が指摘を受けましたが、特に体育館はIS値0.09と判定されました。

六郷中学校の第一体育館は昭和26年建設され、半世紀を超えた老朽化が著しい屋内体育施設です。現在、万が一の事態に備え施錠して生徒の立ち入りを禁止しています。授業や部活は隣接する町民総合体育館アスパルで行っていますが、厳密には現在、六中に体育館がない状態です。確かに耐震補強を施せばまだ第一体育館は使用可能でしょう。しかし、それは課題の先送りとも言え、明らかに六中第一体育館は建てかえの時期を逸しております。振り返れば平成7年度竣工した総合体育館アスパルの建設自体が課題の先送りだったのかもしれませんが、しかし、近年、六中がなし遂げたスポーツ、文化部、両面での活躍はこの両施設があったからこそその成果であり、町として六中生の活躍をさらに支援するためにも第一体育館の新設は必要です。今後、安楽寺の町民体育館の老朽化も進みアスパルの町民総合体育館としての役割はもっとふえるでしょう。しかし、アスパル自体の駐車場スペースは現在のままで十分なのでしょうか。また、老朽化とともに、存続自体が懸案だった六中プール、物置小屋と化した旧合宿

所の取り扱いをどう計画しているのでしょうか。私は総合的な見地から17年度事業として六郷中学校第一体育館の新設を提案し、これを機会に美郷町立六郷中学校と総合体育館アスパルの周辺環境を整備して抜本的な課題解消に取り組むべきだと考えますが、町長の見解をお伺いいたします。

次に、一般質問の第2点として平成17年度において美郷町百目木一般廃棄物最終処分場閉鎖整備事業基金条例の一部改正を提案し、町長の見解をお伺いいたします。

17年度事業では美郷町百目木一般廃棄物最終処分場閉鎖整備事業基金7,000万円から954万7,000円を取り崩し環境対策調査の実施と閉鎖基本計画を策定します。私は、旧仙南村で設置されたこの基金条例の設置目的そのものが年次計画の上で環境に配慮したまちづくりに取り組む姿勢であると評価し、美郷町のまちづくりにおいても生かすべきだと考えます。

美郷町には一般廃棄物最終処分場が旧町村ごとに3カ所あります。現在、千畑地区の処分場は閉鎖申請の上、監視調査中であり、仙南地区は閉鎖整備事業計画が具現化しました。六郷地区の一般廃棄物最終処分場は明田地地内にあり、埋め立てし覆土して休止しております。毎年、地下水脈下流部の住宅で水質検査を行い、今のところ、異常はありません。しかし、新町建設計画ではみんなが暮らしやすいまちづくりの主要施策として環境保全と廃棄物処理体制の充実、公害の防止を掲げています。また、六郷地区はご存じのように、人工涵養で地下水源の保全事業に取り組んでいますが、この明田地地区は六郷扇状地の地下水涵養域に当たる扇中央部に位置します。私は、この六郷地区一般廃棄物最終処分場の取り扱いは環境に配慮したまちづくりの上で当然解消すべき課題であると考えます。そして、千畑地区の処分場も法律改正前の閉鎖申請と聞き不安を覚えます。まちづくりでは全体計画と年次計画、そしてそれに伴う財政計画が必要ですが、この一般廃棄物最終処分場の閉鎖についても同じことが言えるでしょう。私は17年度において百目木を限定した美郷町百目木一般廃棄物最終処分場閉鎖整備事業基金条例を美郷町すべての一般廃棄物最終処分場に適用するよう改正し、課題解消のため必要な調査をした上、閉鎖に向けての全体計画と年次計画を策定すべきだと考えますが、町長の見解をお伺いいたします。以上です。

○議長（後松一成君） 10番、吉野久君の一般質問に対する答弁を求めます。松田町長。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 吉野議員のご質問にお答えいたします。

初めに、六郷中学校第一体育館の新設についてですが、議員ご指摘のとおり、16年度に実施した耐震診断結果では体育館に補強工事が必要である旨の結果でした。学校の意向を踏まえ現在、用を中止しており、暫定的にアスバルを利用いただいているところです。体育館は学校にとって必要な施設ですので早急な対応が必要ですが、議員ご指摘のとおり、現在の体育館を補強してもそもそも老朽施設で

すので課題の先送りとなる可能性があります。したがって、六郷中学校の体育館整備については十分に先を見据えて検討を重ね、その上で方針を固めないといけません。その際の検討視点は現在の体育館の補強工事費用と耐用年数の見通し、現在の体育館を解体する場合、体育館の解体費用と新築工事費用の見通し、それからアスファルトを現在地に建設した経緯と今後の位置づけなどでこれらを総合的に比較検討していくことが必要なものと存じます。こうした視点を踏まえて今後、十分に検討を重ね、17年度内にはその方針を固めたいと存じます。

なお、プール及び旧合宿所の取り扱いについては現段階では見通しを持ちにくい環境にあります。と申しますのも、六郷中学校の場合、まずはパソコンの更新、それから管理棟、教室棟の耐震補強工事など優先すべき課題であり、さらに他校との比較の中で今後、取り組むべき整備案件がありますのでそちらを優先していかなければなりません。もちろん、このままの状態ですと放置するという考えではありませんのでご理解いただきたいと存じます。

また、アスファルト駐車場も含めた周辺整備についても六郷中学校の体育館整備についての方針が固まってからその是非の検討になるものと存じますので、ご理解いただきたいと思います。

次に、百目木廃棄物最終処分場閉鎖事業基金についてですが、議員ご指摘のとおり、町内の各最終処分場を現在の基準に合わせて安全に閉鎖させることは町の課題であると認識しております。その中で百目木最終処分場については、旧大曲市外9カ町村清掃事業組合のリサイクルプラザ稼働により埋立処理の必要がなくなったこと、処理が限界に近づいていることなどの理由から閉鎖することとして16年度において閉鎖のための事前調査を実施し、あわせて閉鎖を新町において円滑に推進していただくために可能な範囲で旧仙南村が基金を造成したものです。したがって、百目木最終処分場の閉鎖に係る計画策定はこの基金を取り崩して進めるところです。

また、旧千畑町最終処分場については、法律改正前に埋め立てを終了し、平成10年12月に県に埋め立て終了届を提出、受理されております。その後は県の指導をいただきながら廃止に向けた調査を毎年度、予算計上し、基準に従い継続調査を行い報告をしているところです。旧六郷町最終処分場については、平成13年3月まで埋め立て処理をし、その後は通常の維持管理調査をしており休止状態となっております。

このように3施設についてはこれまでの対応や取り巻く環境、取り組み段階に差異があることをご理解いただきたいと思います。

さて、当該基金を3施設の閉鎖に活用できるように条例改正してはどうかのご提案ですが、基金造成の経緯や趣旨を踏まえたと、現段階で改正することは難しいものと存じます。

のでご理解ください。いずれにせよ、今後、各最終処分場の閉鎖について計画的に取り組むことは必要ですが、各施設の対応状況、対応経緯や取り組み段階などを踏まえるとともに、17年度の取り組みで見通しがつくのを待ってその後、全体構想を練ってまいりたいと存じます。

以上で答弁を終わります。

○議長（後松一成君） 10番。

○10番（吉野久君） 6月に新町基本構想ができ上がるわけですから、それをもとに新町の基本計画、実施計画ができ上がるので、多分いろいろな、先ほど武藤議員の答弁にも答えたように、17年度事業の中で積み残し事業だとか、そういうのは基本構想、基本計画の中に含まれるのかなとは思いますが、ただ今定例会、16年度の補正予算で耐震補強の資料が出ました。それには六郷中学校の体育館、当然に真っ先にやるべき六中体育館の資料が添付されておりました。六中の場合は教室棟や管理棟がたしか0.5とか0.4という数字だったんですけども、この六中体育館は0.09、繰り上げて0.1だそうです。本当にこれは近々に対応しなければいけないということで多分学務課では予算資料に体育館の図面を添付しなかったと私は考えるんですけども、いかがでしょうか。

○議長（後松一成君） 松田町長。

○町長（松田知己君） 先ほど答弁で答えましたとおり、老朽施設であるがゆえに十二分に先を見据えて検討しませんと経費が果たして生きるのかという議論になりますので、その意味において16年度の補正で前倒し実施するとした、生徒が常日ごろいる場所について急いだということです。それから、体育館については先ほど答弁いたしましたとおり、先を見据えてさまざまな検討視点で総合的に比較検討し、その方針を固めてまいりたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（後松一成君） 10番。

○10番（吉野久君） やっぱり今やることは非常にむだな経費になる可能性があるかと私も考えます。財源の問題も確かにあると思います。財源の問題なんですけれども、事業を提案するときにはやはり財源のことも考慮しなければいけないのはと常々認識しておるわけなんですけれども、新町建設計画では17年度の起債の額を30億円と見ておりました。それが17年度予算では15億3,000万円、かなり起債充当事業を絞った感があるのではないかと私は考えております。義務教育施設建設の場合には生徒数を基準にした3分の1補助で、その補助残の75%が起債充当できるはずなんです。そしてまた、これも今定例会16年度補正予算で審査したところなんですけれども、予備費として8億4,862万円計上されておりました。これは執行率とかいろいろあるんでし

ようけれどもいずれ17年度への繰り越しの財源になる、執行率が98%だとすれば、もう少し上乘せして繰越金になると私は思っております。確かに町長言うように、アスファルトと六中の位置関係もありますが、逆にアスファルトがあることを想定しての規模だったら私はこれらの財源で十分に対応できるのではないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（後松一成君） 答弁、松田町長。

○町長（松田知己君） 先ほど申しましたとおり、検討するためにさまざまな視点が必要で、その視点をそれぞれ検討するためには時間が必要で、その時間を確保するためには16年度補正で直ちに上げるという安易な方向をとることがいかがかということなので先ほど来、答弁しているところですのでご理解いただきたいと思えます。

○議長（後松一成君） 10番。

○10番（吉野久君） もう1点だけ再質問いたしますけれども、その前に、私はまちづくりの根幹は人材育成にあると考えております。それはやはり教育だと思えますのでこの課題は本当に近々に対処していかなければいけないと私は考えます。

次に、最終処分場についてですが、7,000万円をほかの方に使えという、そういうことではありません。百目木の処分場の閉鎖計画がたしか17年、18年の2年で事業を行い、その後、2年間、監視調査をする計画になっておるはずですが、それまでの4年、そうすれば平成20年までに各処分場に対応できるような基金を段階的に、計画的に積み上げたらいかがでしょうか。今回取り崩します。来年度も百目木の処理にお金がかかります。それはそれとして確かにそうやって積み立てた基金ですからそれを使えと言うのではなく、この財政事情が苦しい中で次の計画として、百目木が終了後、例えば六郷とか千畑とか、そういう年次計画を立てていながら基金も積み立てていってはいかがでしょうかという、そういう質問なんだけれども。

○議長（後松一成君） 答弁、松田町長。

○町長（松田知己君） 基金の積み立てについては、財政運営上、積み立てられる一般財源があれば積み立ててまいります。先ほど来、ご質問ありますように、六郷中学校の新設の問題であり、またさまざまな積み残した課題がたくさん各地域にあります。そういった部分を考えた場合、この段階で積み上げるというお約束をできませんのでご理解いただきたいと思えます。

○10番（吉野久君） これで一般質問を終わります。

○議長（後松一成君） これを持ちまして10番の吉野久君の一般質問を終了いたします。